

平成28年度社会教育・公民館等職員研修会 I

日時：平成28年5月23日（月）10:00～15:30

会場：県行政庁舎 講堂

〔ねらい〕

社会教育施設・公民館の役割と社会教育担当者として働くことの意義についての講話を聞いたり、自身の課題を考えたりして、1年間の業務の見通しをもつ。また、地域における先進事例を体験しながら、学びの場と地域づくりについて考える機会とする。

【社会教育・公民館等職員 初中級者向け研修シリーズ①】

〔参加者〕

市町村等教育委員会職員、公民館等社会教育関連施設職員、社会教育主事等社会教育関係職員
91名

〔内 容〕

午前：説明「平成28年度社会教育・公民館職員等研修会 年間講師紹介 年間計画説明」

| | | |
|----------------|---------|----------|
| 講師：大崎市西古川地区公民館 | 館長 | 佐々木 孝嘉 氏 |
| | 生涯学習指導員 | 佐藤 児都 氏 |
| 仙台市広瀬市民センター | 主任 | 澁谷 まゆみ 氏 |
| 仙台市榴ヶ岡市民センター | 主任 | 笹川 圭子 氏 |
| 名取市教育委員会生涯学習課 | 課長補佐 | 佐々木 賢一 氏 |
| | 社会教育指導員 | 赤川 泉美 氏 |
| | 主査 | 中山 透 氏 |

アドバイザー：東北大学大学院教育学研究科 准教授 石井山 竜平 氏

講話「社会教育施設・公民館に求められているもの」

講師：東北大学大学院教育学研究科 准教授 石井山 竜平 氏

午後：講話・ワークショップ・シンポジウム

「学びの場と地域づくり～防災リーダーの育成と地域づくり～」

講師：特定非営利活動法人イコールネット仙台 代表理事 宗片 恵美子 氏

コーディネーター：東北大学大学院教育学研究科 准教授 石井山 竜平 氏

受講者自己紹介シートから

1 今のようなお仕事に、どのような思いで取り組んでいますか。

- 将来地域づくりの中心となるであろう子どもたちや、子どもを育てる親に対して、地域の良さや自分たちの役割などを実感し、将来地域で力を発揮してもらえるようになってほしいとの思いをもって、一つ一つの事業が彼らにとって何かの「きっかけ」になるよう工夫しながら取り組んでいます。

うまくいかないことも多いですが、チームで相談したり情報を共有したりしながら楽しく仕事をしています。

- 指定管理している各地区公民館が、地域の核となり、地域住民も巻き込みながら、楽しく生涯学習の推進及び地域のさらなる活性化のためには、どのような支援が必要なのか常に悩みながら、周りとは相談しながら実践しています。

様々な方の力を引き出せる参画型の講座、地域（個々人）の課題解決にむけた講座を実施したいと考えています。

- 青少年教育、協働教育、文化芸術、町外との交流等の生涯学習事業を担当しています。町の復興に少しでも力になれるよう、また町民の皆様には元気と笑顔を届けられるようにという思いで取り組んでおります。
- 社会教育とかかわるのは初めてであり、分からないことが沢山あります。ですが、事業や講座を通じて町民の方々とかわる機会を多くすることで、社会教育を学んでいけると思っています。今回の研修で社会教育の基本の部分を学びたいと思っています。



- 力を入れて取り組んでいる業務の一つに、協働教育プラットフォーム事業があります。小学校、中学校、保育所などの子どもたちを「家庭・地域・学校・公民館の協働により地域全体で子どもを育てる！」を基本方針に、今年度も20余りの事業を計画しています。学校の要望やニーズに応じて、授業時間に実施する学校支援事業の他に、土曜教育推進事業として休日等に子どもたちの学び、遊びの場づくりの提供を地域人材をフル活用して実施する予定です。「全ては地域の子どもたちのため」と考えて、惜しみなく協力して下さる地域の方々に常に感謝の気持ちを忘れず、担当職員としても本事業を通じ、子どもたちの心身の健全育成につながることを願っています。
- 4月から新規採用職員として社会教育課に配属され、約2か月いろいろな仕事を体験しました。市民の皆さんと直接接する機会が多い仕事なので、一人一人の状況や環境を発言・共有することのできる場を、今以上につくっていきたいと思っています。
- 避難所でもある公民館の職員として、地域の皆様との交流や意見交換を大切にしていきたいと考えております。



2 本日の研修をどのように受けとめましたか。

- 『地域に残る人（地域をあきらめないひと）』に力をつけていくのが社会教育・生涯教育であり、地域活性化を本気で考えるのなら、この部分に真剣に取り組む必要があると感じました。地域活性化のために人を呼び寄せる企画・イベントだけで終わらせたくないと感じました。
社会教育では、そこに集まる人全員の経験も大きな宝となることを感じました。だからこそ、みんなで互いに話し合う場が大切。そんな場を常に作ることを意識しながら事業を進めていきたいと思いました。
誰か一人の話聞いて終わるのではなく、そのことに対してお互いの思い・経験・感じたことを話し合い共有する（学び合うこと）で、学びが楽しく・理解がさらに深まるように感じました。今回の研修で、このことを実感させてもらえました。
- 地域を元気にしていくためには、人と人のつながりが大切である。今日の話のキーワードは「女性」であったと思う。女性が見て感じたことを伝え合い、何人かがつながっていくと具体的に動き出し、それまで気付かなかったことなどが前進する力になるのだと思った。社会教育に関わる者は、この「きっかけ」をどのように仕掛け、つくり、動き出したら、どのように育てるかが重要な役目だと感じた。
- 「共同の学び」からの気づきというものを身をもって感じる事が出来た。地域を育てるために、どんな働きかけをすればいいのか、しゃかりきになって考えていたが、いつでも人が集まる場として公民館があって、そこでお互いのことを知り、その中でいつの間にか「私」が抱えていた課題を「私たち」の課題として共有し、解決策を探っていく中で、自然と地域が育っていくのだということを感じた。しかしながら、住民が気づかない課題というものもある。そういった見えない課題について気づかせてあげられるようなきっかけづくりはやはり、公民館職員の出番なのかもしれない。常にアンテナを張っていくことが必要だと感じた。今後の学びにも大いに期待している。
- これまでの自分を振り返り、仕事を処理することばかりに気をとられていたことに気付いた。本来は地域の人たちのためになることや、人材を見つけて育てていくことなど、地域づくりにつながるようなことを考えながら、仕事をしていくべきだと考える。そして、本日の研修で学んだ、「共同学習」の場を創り出すような働きかけをしていくのが、自分の仕事であると感じた。このような思いを、明日からの仕事につなげていきたい。
- 毎度のことながら、社会教育・生涯学習支援に取り組んでいらっしゃる各々の情熱に刺激を受けます。各自治体・地域によって若干の違いはあれど、共通の悩みや苦勞もあり、分かち合うことで励みにもなりました。講話や資料から、今、公民館に求められているものについて考えさせられました。答えは一つではなく、受け止める側（学習者）のさまざまな条件によっても変わってくると思います。生涯学習の支援はもちろん、生涯学習（自主的な学習）を引き出すような社会教育という部分について工夫していきたいと考えています。

